

持続的成長に向けて、新たな高付加価値化へ挑む— 創立90周年の節目を迎え、さらなる飛躍を



代表取締役社長

里 隆幸

当社は、本年7月25日に創立90周年を迎えました。90年という長きにわたり支えてくださったお客様、株主・投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様に、心より感謝を申し上げます。

当社発足の1929年当時の日本では、産業発展のため塗料の国産化が強く求められていた時代でした。この社会的要請に応えるために開発されたのが、欧米製品を凌駕する防錆機能をもった亜酸化鉛粉さび止め塗料「ズボイド」です。当社の経営理念で掲げる「広く社会の繁栄と豊かな暮らしの実現に貢献」という一節は、創業精神からの変わらぬ思いを示しております。その後の歴史のなかで、総合塗料メーカーとして新しい塗料技術や施工方法を開発、近年では、環境に配慮した製品・技術の開発にも積極的に取り組んでまいりました。

今後は、2020年以降の社会の変化を見据えたビジネスモデルの構築を進め、持続的成長力をもつ企業を目指してまいります。本年度は、従来の高付加価値化戦略を継続・発展させ、それを支える研究開発体制や生産体制の再構築に主眼を置き、計画を着実に実行してまいります。これによって当社にしかできないサービス、当社にしかない技術・製品を増やすことで、さらなる飛躍を図ります。

それを達成する第一のエッセンスとして、強みを活かし、新規需要の創出に邁進するために那須事業所に劣化建造物の総合的な補修対策の研究を主軸とした「DNT防食センター(仮称)」、また小牧事業所に産業構造の変革に伴う素材の変化に適合する塗料、塗装方法に関する研究を主軸とした「DNT新素材センター(仮称)」の設置を予定しております。また中国では生産力向上と環境規制への適応を目指し、溶剤・水系・粉体塗料を製造する新工場の設立を決定しました。第二のエッセンスとして、お客様の満足度をいかに向上させるか、この一点を第一に考えたお客様との共存共栄を図るための行動指針「カスタマー・ファースト」と、業務効率化や教育体制の充実による人材のレベルアップを図る「働き方改革」の2つのキーワードを合言葉に、高収益体質の実現に向けて取り組んでまいります。第三のエッセンスとして、企業価値と社会的信頼の向上を目指し社業の発展だけでなく、世界の動向に呼应し、環境に配慮した製品づくり、特にSDGs(持続可能な開発目標)に基づいた取り組みを積極的に進めてまいります。

これから10年後の創立100周年、さらにはその先の将来においても成長し続ける企業を目指すべく、視野は広く、視点は細やかに、日々着実な歩みを進めてまいります。

読者の皆様におかれましては、なお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最新の技術基盤を構築し、新たな価値創造で社会貢献



取締役 執行役員
塗料事業部門長

山本 基弘

DNTコーティング技報No.19の発刊にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年5月1日に祝賀ムードの中で元号が「平成」から「令和」に改元されました。また、来年には東京五輪が開催されます。それに関連した様々な建設が活発に行われています。さらに2025年には大阪で万国博覧会の開催が決まるなど、経済効果への期待の高まりが感じられます。

そのような中、当社は本年で創立90周年を迎えました。これまで、お客様にとっての価値をご提供させて頂くことを第一義に捉えて、製品・技術を開発し、様々な分野で、物に色彩を与え、安全・安心が得られ、快適な環境を創り出すことに貢献して参りました。近年では、インフラの老朽化対策技術、省エネ・省資源に繋がる技術、環境対策に繋がる技術、また様々な素材へのコーティング技術、高度な意匠技術などが必要とされ、それらを解決するための製品・技術を開発してきております。その研究開発機能を拡充するべく、2つの技術開発センターを来春に開所致します。1つは、防食技術の研究開発施設です。様々な温度・湿度設定ができる大型塗装スペースを保有し、実寸大の構造物部材の施工実験が可能です。また、塗膜や躯体の寿命予測技術の開発も行います。もう1つは、様々な素材に最適なコーティングシステムを研究開発する施設で、素材の表面や塗膜と素材の界面を高度に分析できる設備や、開発したコーティングシステムを実寸大の部材に塗装実験できる塗装ラインを有しています。また、インクジェットプリンターによる意匠付与開発も行います。何れのセンターもお客様とともに研究開発を行い、完成した製品・技術の早期実用化に繋がるようにしていきたいと考えております。

「DNTコーティング技報」では、毎号最新の研究成果、商品開発、新商品情報などの一端を紹介しております。本報に掲載しております製品や技術も、各々の分野における課題を解決することができる機能性を有しております。

当社は、今まで培ってきた基盤技術をさらに進化させ、次の創立100周年に向けて最新の技術基盤を構築し、変化の激しい市場への柔軟な対応力で、お客様が求める新規商品すなわち価値をより速くご提供し、社会に貢献して参ります。本誌が、日頃ご愛顧を頂いている皆様とのコミュニケーションの一助となり、僅かでもお役に立てますことを心より願っております。